



発表項目 (行事名)	冬期の温室における水稲の収穫(刈り取り作業)について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
	月 日( ) 時 分～	発表場所	
概要	<p>次のとおり温室で水稲の収穫(刈り取り作業)を行います。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 場 所 北海道立総合研究機構農業研究本部上川農業試験場の温室 (上川郡比布町南1線5号)</p> <p>2. 日 時 令和5(2023)年3月3日(金) 9時30分～11時30分</p> <p>3. 内 容 昨年夏期に上川農業試験場および中央農業試験場の交配作業で得られた種子(F<sub>1</sub>世代)については、現在、上川農業試験場の温室で一括して冬期養成しており、昨年11月4日に田植えを行った後、上記日時で刈り取る予定です(F<sub>2</sub>世代)。</p> <p>4. 目 的 通常、北海道の稲作は年1作しか栽培できないが、冬期に温室で2度目の栽培を行うことで、品種育成の期間(交配から品種になるまでの年数)を1年短縮することが可能となります。</p> <p>今回収穫される種子は、本年3月下旬に道南農業試験場(北斗市)に送付し、大型温室で2期作(4～7月、8～11月の年2回栽培)を行うことで、さらに品種育成の期間を1年短縮することが可能になります。</p> <p>本年、初冬に道南農業試験場で得られた種子(F<sub>4</sub>世代)は、来年の春に上川農業試験場および中央農業試験場へそれぞれ返送され、4月以降、水田で選抜試験が行われます。</p>		
参 考	F <sub>1</sub> 世代とは2つの系統を交配して作出された雑種の一代目のことであり、以降同様にF <sub>2</sub> 世代、F <sub>3</sub> 世代、F <sub>4</sub> 世代へと世代が移っていきます。		

報道(取材) に当たって のお願い	<p>① 取材を希望される場合には可能な限り事前にご連絡をお願いします。</p> <p>② 都合により日程を変更する場合があります(その場合は至急連絡いたします)。</p> <p>③ 作業時間が若干ずれる場合があります。</p> <p>④ 作業員への質問、写真撮影等は当日担当にご相談ください。</p>		
他のクラブ との関係	同時配付	(場所)	
	同時レク		

担 当 (連絡先)	<p>地方独立行政法人北海道立総合研究機構 農業研究本部 上川農業試験場 研究部 水稲グループ (担当者: 尾崎 洋人) 電話 0166-85-4115(直通) E-mail: ozaki-hiroto@hro.or.jp</p>		
--------------	---	--	--

## 冬期の温室における水稲の収穫(刈り取り作業)について

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
農業研究本部 上川農業試験場  
水稲グループ

水稲の品種育成には長い年月を費やすことから、少しでもその期間を短縮するため、北海道立総合研究機構農業研究本部上川農業試験場では 1955 年より冬期に温室を利用して世代促進栽培を行っています。本年度も雑種第一代(F<sub>1</sub>, first filial generation)の養成を行っており、昨年 11 月 4 日に田植えを行ったものを、本年 3 月 3 日に収穫(刈取り作業)を行う予定です(F<sub>2</sub>世代)。

なお、北海道立総合研究機構農業研究本部では、水稲の品種育成の効率化を目的に、2013 年度から、中央農業試験場で交配された F<sub>1</sub> 種子も同時に上川農業試験場で養成しています。

上川農業試験場では以下の目標で品種育成試験を進めています。

- ① 「ゆめぴりか」や「ななつぼし」に優る極良食味品種
- ② 「はくちょうもち」や「風の子もち」に優る多収で耐冷性、耐病性の優れたもち品種

中央農業試験場では以下の目標で品種育成試験を進めています。

- ① 「きらら 397」や新品種「空育 195 号」に優る業務・加工用多収品種
- ② 「えみまる」に優る直播栽培可能な多収・良食味品種
- ③ 「吟風」「彗星」「きたしずく」に優る酒米品種

### 1. 試験目的

今年度夏期に人工交配を行い、収穫した F<sub>1</sub> 種子を冬期に温室で養成して、品種育成の期間(交配から品種になるまでの年数)を 1 年短縮する(世代促進栽培)。

### 2. 供試材料

- ・昨年夏期に交配した 50 組合せ(上川農業試験場)および 44 組合せ(中央農業試験場)、計約 5,000 株
- ・比較品種(「大地の星」、「ゆめぴりか」、「ななつぼし」、「きらら 397」、「きたふくもち」、「きたゆきもち」、「はくちょうもち」、「風の子もち」)

### 3. 耕種作業概要

- ・播種日:2022 年 10 月 6 日      ・移植日:2022 年 11 月 4 日
- ・収穫日:2023 年 03 月 3 日      ・栽植様式 条間:12 cm、株間:12 cm

### 4. 温室概要

- ・温室面積(1 棟あたり):20.4m × 6.3m = 128.5 m<sup>2</sup>、2 棟使用
- ・水田ベッド面積(1 ベッドあたり):18.0m × 1.5m = 27.0 m<sup>2</sup>(内寸法)、1 棟 2 ベッド  
→ 27.0 m<sup>2</sup> × 4 ベッド = 108 m<sup>2</sup>使用

### 5. 温室の温度設定

- ・昼:20℃—28℃
- ・夜:13℃—20℃

いずれも時期により異なる。

6. 今後の材料の流れ

乾燥、脱穀後3月下旬に2農試合わせて100組合せ程度を道南農業試験場に送付します。道南農業試験場では大型温室で2023年4月～7月、同8月～11月の2回栽培・収穫した後、2024年3月までに両農試に返送します(F<sub>4</sub>世代)。同年4月からそれぞれの試験用水田で栽培を行い、特性の優れたものを選抜します(個体選抜試験あるいは穂別系統選抜試験)。

今回温室で養成された試験材料が品種になるのは最も早くて2031年2月です。

水稻品種育成試験の流れ(薬培養は2019年度から休止)

